

事業の概況

事業方針

2020年度は第6期中期経営計画（2018～2020年度）の最終年度として、「10年後のめざす姿」に向けてさらなるステップアップを図るため、重点施策に掲げた「営業活動の強化」「業務改革の実行」「共生社会の実現」「職員が誇りや喜びを実感できる組織風土の確立」「持続可能な経営体質の構築」を柱に、事業を展開しました。

経済・金融環境

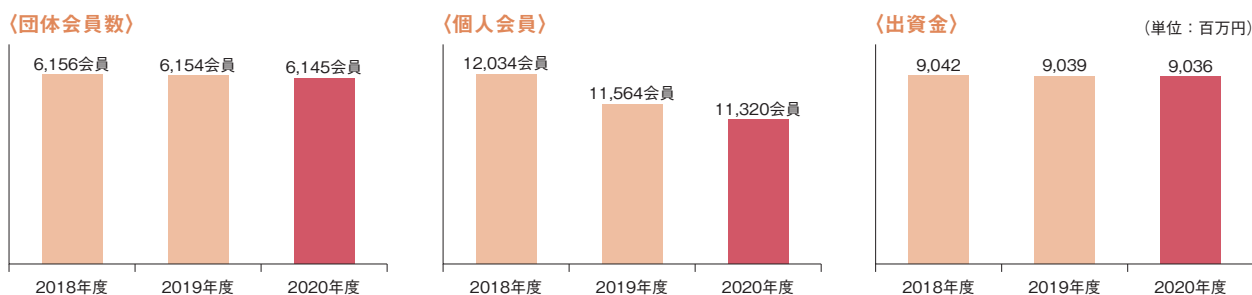
2020年度の国内経済は、新型コロナウイルス感染拡大等の影響により、国内総生産や国民総所得、労働・雇用面の主要経済指標について、2019年度から低下が見込まれており、今後は、感染拡大の防止と並行して社会経済活動の回復が課題といえます。金融環境面では、日銀による「マイナス金利政策」の継続により低金利環境が長期化していることや、コロナ禍に伴う影響等から、地域金融機関においては依然として厳しい状況が続いています。また、少子・高齢化や人口減少等の社会的課題も深刻化しており、ろうきんを取り巻く経済・金融・社会環境はいずれも厳しさを増しています。

業績

※個人預金・個人融資につきましては、営業推進管理上の実績数値となります。

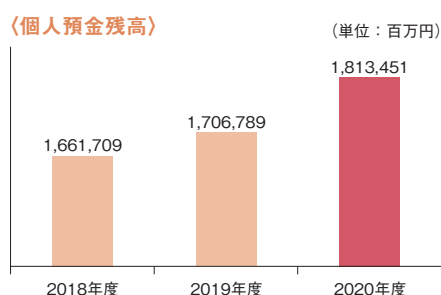
■ 会員および出資金

- 団体会員は、9会員減少し、6,145会員となりました。
- 個人会員は、244会員減少し、11,320会員となりました。
- 出資金は、2百万円減少し、90億36百万円となりました。



■ 預かり資産

- 個人預金は、残高増加目標395億1百万円に対して1,066億45百万円の増加実績となり、全営業店で目標を上回ることができました。その結果、2021年3月末の残高は1兆8,134億51百万円となりました。
- 投資信託は、販売目標10億円に対して17億63百万円の実績となり、全県本部で目標を達成することができました。また、国債は、販売目標20億円に対して42億33百万円の実績となり、全営業店で目標を達成することができました。



■ 融資

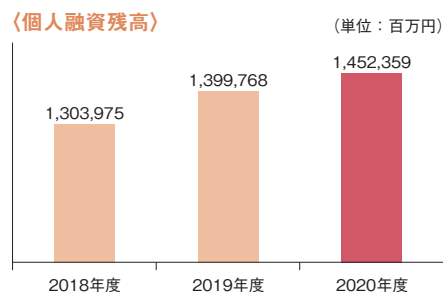
○個人融資は、貸出金収益ポイントでの目標管理は行わず、「有担保ローン」と「無担保ローン・カードローン」の対期首純増額を金庫の目標としました。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、営業店の強みである対面での渉外活動が制限されたことや、消費活動の停滞等により、「有担保ローン」は目標563億円に対して実績513億36百万円、「無担保ローン・カードローン」は目標75億1百万円に対して実績12億55百万円と、いずれも目標を下回りました。

○個人融資残高は、対期首525億91百万円増加し、2021年3月末の残高は1兆4,523億59百万円となりました。

○「有担保ローン」の2021年3月末の残高は、1兆2,282億25百万円となりました。

○「無担保ローン（カードローンを除く）」は、対期首33億64百万円増加し、2021年3月末の残高は1,822億96百万円となりました。

○「カードローン」は、対期首21億9百万円減少し、2021年3月末の残高は418億38百万円となりました。

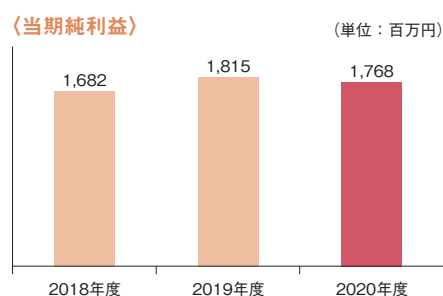


■ 収支状況

經常収益は、254億62百万円の計画に対し8億15百万円上回る262億77百万円となりました。計画を上回った主な要因は、資金運用収益が2億29百万円、役員取引等収益が8百万円、その他業務収益が3億16百万円、臨時収益が2億61百万円上回ったことによるものです。

經常費用は、238億16百万円の計画に対し1億79百万円下回る236億37百万円となりました。計画を下回った主な要因は、その他業務費用が7億13百万円、資金調達費用が9百万円上回ったものの、役員取引等費用が2億55百万円、経費が6億37百万円、臨時費用が9百万円下回ったことによるものです。

これにより、經常収益から經常費用を差し引いた經常利益は、計画を9億94百万円上回る26億40百万円となりました。特別損益を加減した税引前当期純利益は、計画を10億2百万円上回る24億48百万円となり、法人税等を差し引いた当期純利益は、計画を7億13百万円上回る17億68百万円（前年度実績：18億15百万円）となりました。



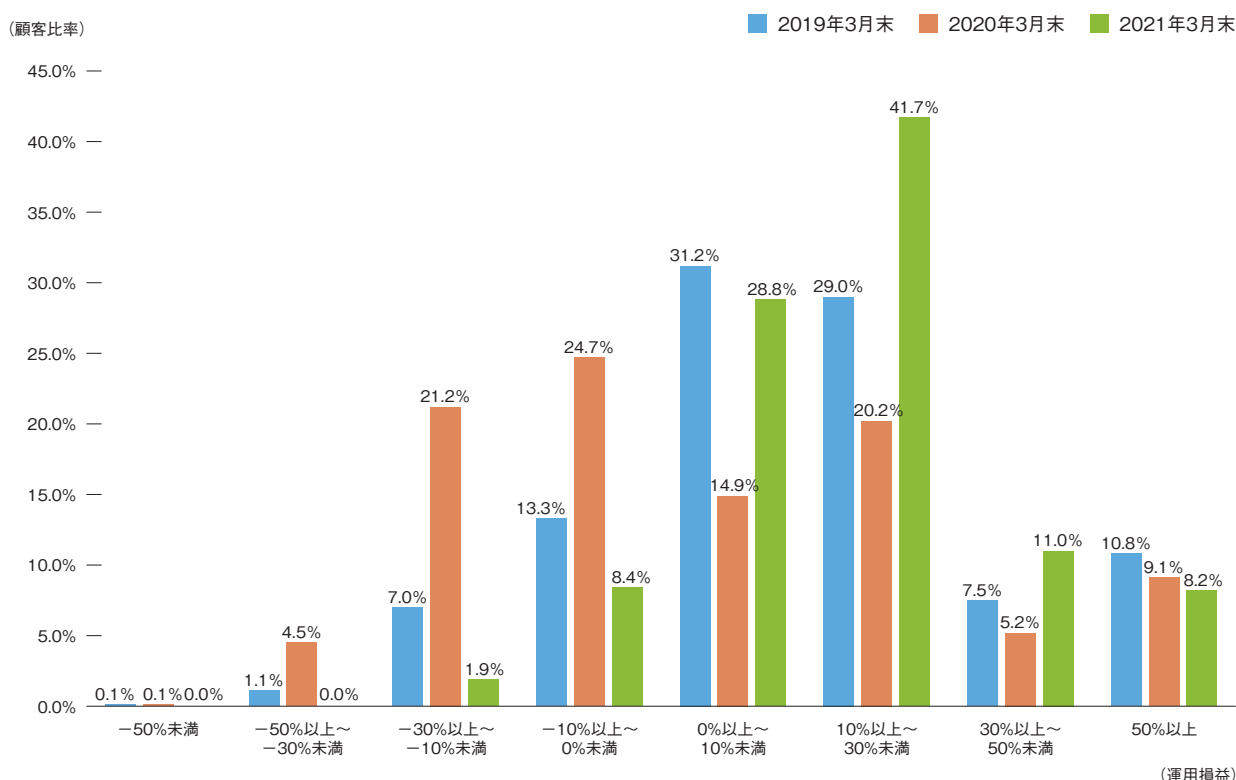
お客さま本位の業務運営に関する取り組み状況

当金庫では、「お客さま本位の業務運営に関する取り組み方針」および行動計画（アクションプラン）に基づく業務運営の取り組み状況として、投資信託販売業務の内容を中心とした具体的な成果指標（KPI）を設定し、取り組み状況を定期的に公開しています。

2020年度の主な取り組み状況は次のとおりです（詳細はホームページをご参照ください）。

- お客さまのライフプランやニーズ、投資目的に合った商品をご提案できるよう、ラインナップの整備に努め、投資対象・決算頻度等が偏ることが無いよう、複数の商品を選定しています。また、ESG（環境・社会・ガバナンス）などを意識した商品も取り入れています。
- 長期安定的な資産形成のため、「時間分散」「長期保有」等によりリスクを抑え、少額からの積立・分散投資が可能である定時定額買付をご提案しています。
- 2021年3月末時点で投資信託を保有されているお客さまの89.7%は運用損益がプラスとなっており、新型コロナウイルス感染拡大による世界的な株価下落等の影響を受けた前年度（2020年3月末時点）の49.4%と比較して、40.3ポイントの増加となっています。また、投信サポートセンターより、投資信託を保有されているお客さまに対して、評価額等の状況確認や市況環境の変化等の情報提供を定期的に行っています。
- 金融知識の向上に役立つセミナーを積極的に開催し、お客さまの資産形成の支援に努めました。また、お客さまの立場に立った分かりやすい情報提供と最適なサービス提供を行うため、職員の資格取得を推進するとともに、庫内研修を通じた商品提案・説明手法のスキル向上を図りました。

運用損益別顧客比率

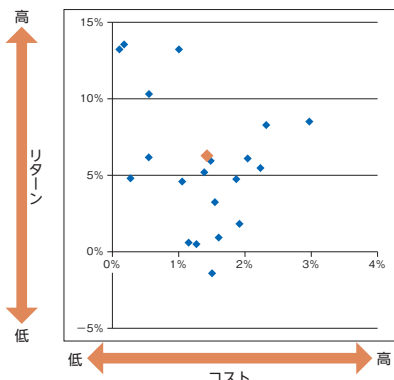


■ コスト・リターン／リスク・リターン（投資信託預かり残高上位20銘柄）

投資信託の預かり残高上位20銘柄について、預かり残高加重平均のコストとリターンの関係、リスクとリターンの関係を示した指標です。これらの指標により、中長期的に、どのようなリターン実績を持つ商品をお客さまに多く提供してきたかを確認することができます。

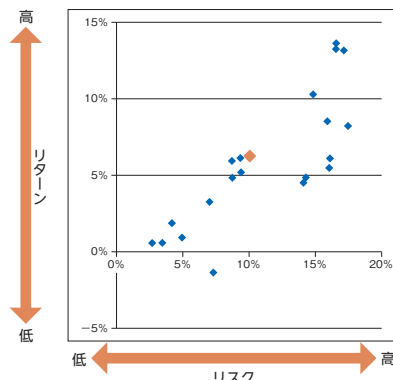
【2021年3月末】

投資信託預かり
残高上位20銘柄の
コスト・リターン



残高加重平均値	コスト	リターン
	1.44	6.25

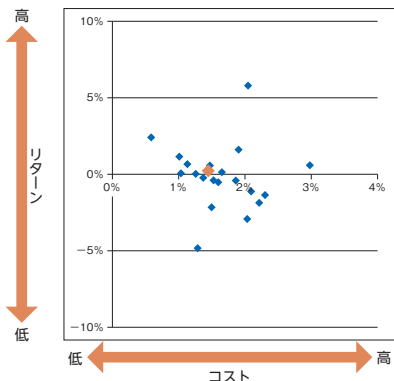
投資信託預かり
残高上位20銘柄の
リスク・リターン



残高加重平均値	リスク	リターン
	10.08	6.25

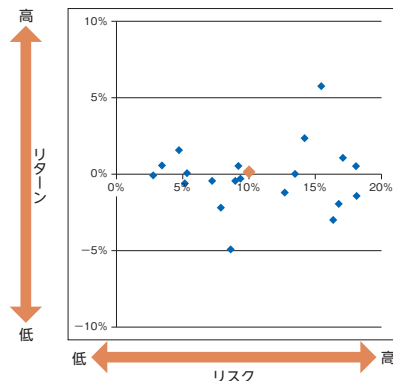
【2020年3月末】

投資信託預かり
残高上位20銘柄の
コスト・リターン



残高加重平均値	コスト	リターン
	1.48	0.22

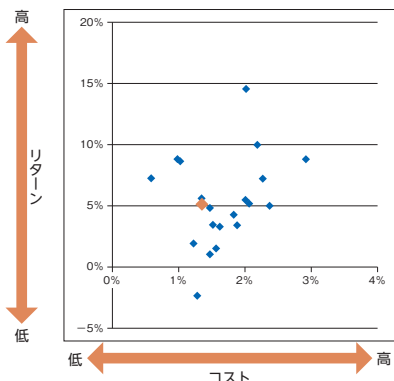
投資信託預かり
残高上位20銘柄の
リスク・リターン



残高加重平均値	リスク	リターン
	10.00	0.22

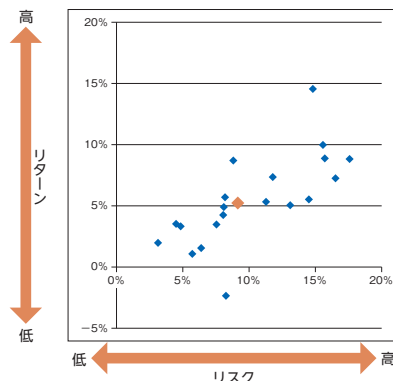
【2019年3月末】

投資信託預かり
残高上位20銘柄の
コスト・リターン



残高加重平均値	コスト	リターン
	1.45	5.17

投資信託預かり
残高上位20銘柄の
リスク・リターン



残高加重平均値	リスク	リターン
	9.09	5.17

コスト	全体	販売手数料率の1/5+信託報酬率
	販売手数料率	取り扱い時の最低販売金額での料率
	信託報酬率	実質的な信託報酬率の上限
	リターン	過去5年間のトータルリターン（年率換算）

リスク	過去5年間の月次リターンの標準偏差（年率換算）
リターン	過去5年間のトータルリターン（年率換算）